

猿新聞

編集責任者
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

大量捕獲後の対策

急に定め、実行することが求められます。被害にあわ

名張地方で農作物被害が発生し始めたのが、約10年前です。被害防除のためありとあらゆる対策が講じられてきましたが、農作物被害の解決はおろか、被害地域はさらに拡大の一途をたどり、人里のありとあらゆる所でサルが動き回っているという状態になり、ついにサルの出没は市街地にまで及んで、生活環境被害にまで及んできた始末です。

そこで名張、宇陀両市では、名張市東部に生息する名張A群と宇陀市東部から名張市西部をエリアとする名張B群の大量捕獲を実施しています。

サルの保護管理には、これといったマニュアルは確立されていなく、各地域毎に千差万別で、手探り状態というのが実情だと思えます。サルの個体数調整には他の動物とは異なる考え方が必要で、順応的管理が求められています。数が減れば被害が減るといった単純なことではなく、大量捕獲後どうなるのか、またどうするのかの目標を明確化することが必要です。大量捕獲の目的は、群れ管理を容易にできるサイズにまで縮小し、最終的には棲み分けを図ることにあると考えます。



い地域をつくるにはどうしたらいいのかなどの、問題点を検討し、解決に導く手法を真剣に考えなければなりません。例えば、群れがコンパクト化したいま、モンキードッグの多頭数追い上げなどは大きな効果があるのではないのでしょうか。

行政域を越えて遊動する名張B群の位置情報の把握は困難でしたが、群れのコンパクト化により比較的容易になったと思われま

このまま放置していると群れサイズが元に戻るのには時間の問題で、現存するオトナメスの数だけは自然繁殖することは必ずです。これを機に人圧を高め画期的な対策を打ち出さなければ、いままで積み重ねてきた努力が水泡に帰します。今後は、群れサイズの現状維持を図ると共に、隣接する群れの侵入防止を図ることが必要になります。さらに、各地区での耕作放棄地の藪化防止など環境整備。サルのいやがる集落づくりなど、地域住人が協力して今までの強化を図っていくことが求められます。

終わりが見えない鳥獣害



名張A群 名張市中知山でタマネギ畑荒らす！平成29年5月サルによるタマネギ被害が発生。完全な柵（写真）にもかかわらず無残な姿。せつかく作った作物を取っていかれて

は たまったものではないです。サルは、耕作地周辺の人の動きを「隙あらば」と、しっかりと観察しています。サル対策は、人間と猿の知恵比べですが、人知を働かし人とサルが共存する方法を模索するのも人間の努めです。写真・古川さん動画より

名張B群 矢川春日神社に突然姿表す！平成28年4月22日、名張B群オトナ5頭ほどと、頭数は確認できなかつたが、数頭のアカンボを目標でタマネギの被害。B群の矢川周辺への出没は、ここ4年間ほどは途絶えていたのが突然の出没に驚きました。29年に入り伊賀竜口周辺に固執して行動していたが、最近、西谷地区周辺へ行動域を変えてきたようです。また、大量捕獲後、一年余り出没のなかった、安部田周辺から井手への出没情報が



多くあり、遊動域が大量捕獲前の状態に変わりつつあるのが心配です。写真提供 吉岡正人さん

鳥獣害対策 将来ビジョン あの手この手とあらゆる手段を駆使して努力を重ねていますが、果たして5年後には被害は解消するのか、10年後には解決するのか、全くもって見通しが見えない現状です。終わりが見えない鳥獣被害、その背景には何があるのでしょうか。一般的に温暖化や自然環境の変化などが取りざたされがちですが、その一方で中山間地域の社会構造の変化がもたらす影響は看過できない大きな問題です。中山間地域では、過疎化・高齢化が急速に進み、農林業の低迷や担い手不足が深刻化しており、地域によっては集落機能の維持に支障を来たす



名張A群 上比奈知国津神社荒らす！無住の神社仏閣は、多くの野生動物にとって格好の棲家になります。平成28年1月国津神社に数十頭の群れが現れ、しめ縄をはずすなど、神をも恐れぬ狼藉をはたらいています。同じような話はよく聞きます。お供えなどそのまま放置していませんか？。神社周辺の畑などにサルの餌になるようなものはありますか？。近頃はお宮さんにお参りする人が少なくなっています。日頃、足繁くお参りするものが最も効果があるのではないのでしょうか。写真・古川さん動画より

など大変厳しい状況にあります。これが獣害最前線の中山間地域の現状です。獣害対策は、農林業被害軽減の重要な対策であると共に、中山間地域においては活性化や集落の団結意識強化など農業被害を軽減する以外の価値があり、中山間地域が持続可能な農村でありつづけるための大きな原動力につながっています。今後は、長期的展望の中に獣害対策を位置づけ、山村の持続的発展と野生動物との共存両面に役立つ施策と具体的な対策技術の確立を図ることが喫緊の課題となります。さらに、里山の再生や耕作放棄地の再生・保全も急がねばならない緊急課題です。

が、無住の神社仏閣を、サル被害から守るのは非常に困難なことです。拜殿をネットで囲むなどして防除しているのをよく見かけます。狗肉の策だと思いますが、あまり良い風景ではありません。お供えなどそのまま放置していませんか？。神社周辺の畑などにサルの餌になるようなものはありますか？。近頃はお宮さんにお参りする人が少なくなっています。日頃、足繁くお参りするものが最も効果があるのではないのでしょうか。写真・古川さん動画より

研修会開催

『集落での取り組みについて』

シなどの被害減少を図るには、加害獣の生態や行動特性を知ることが重要。

核心をついた動画を駆使しての説明で受講者にわかりやすく良かったと思います。

技師・佐藤 恒亮氏
講演概要
市川 昌樹氏
「防護策の基本マニュアル、サル・シカ・イノシシ被害対策」
三重県では、獣害対策5箇条を策定。
1 エサ場をなくす
2 隠れ場をなくす
3 侵入防止柵で囲む
4 追い払う
5 適切に捕獲

佐藤 恒亮氏
「国津のアンケートの集計結果と今後の対策について」
講演内容は、事前に撮った集落内の被害写真、集落の航空写真や地図、イノシシやシカなどの動画、研究結果のグラフ化など視覚を重視した説明で受講者は理解しやすかったと思います。

また、事前に各集落に出没状況や被害状況などのアンケート調査を依頼し、その結果を参考資料にするという、対象集落を限定した手法で行われました。

この手法は、各集落の獣害対策への住民意識の向上につながる。ともに、情報の共有や集落内の様々な課題が明らかになるなど非常に効果的だと思います。『集落・個別侵入防止柵などが設置されていますが、間違いや誤解で効果が不十分な箇所も見受けられました。今後は、被害状況と課題を集落全員で共有し、集落ぐるみでさまざまな被害対策に取り組んでいく必要があります。』と佐藤氏。



講師
三重県伊賀地域農業改良普及センター
主幹・市川 昌樹氏
三重県中央農業改良普及センター

名張市西高・西峰高等学校 科学部 獣害問題班「の若い世代の参加が印象的でした。」



写真上＝市川氏 講演…『あなたの鳥獣対策間違っていますか』。

写真下＝佐藤氏 講演…『集落ぐるみで様々な問題を解決しましょう』。

写真＝研修会参加の「部活・名張市西高・西峰高等学校 科学部 獣害問題班」。

サルの出没状況

名張A・B群

指導員報告

6月の動向

A群は、5月下旬から6月中旬にかけて、中知山集落と青蓮寺湖、青蓮寺橋から弁天橋周辺の山中

指導員報告

6月の動向

B群は、5月下旬に安部田鹿高方面を国道165号線阿清水橋前から奈良県に向かう付近と安部田鹿高神社と深野の山中で電波受信がありました。その後、6月初旬からは、安部田、坂之下周辺から離れず、最近では井手公民館から稲荷神社付近でも受信があることがあり、錦生東部にまで被害が及ぶ可能性があります。

指導員報告

6月の動向

サルは春季は近距離をゆっくり移動しながら採食、秋季は比較的に長い距離を迅速に移動する傾向があるといわれています。

指導員報告

6月の動向

と道路上を行ったり来たり同じ場所を移動しています。青蓮寺湖畔は、実のなる樹が多いので木の実などを採食しているように思われます。10頭ぐらいの群れが道路上を自動車と行人を気にしながら移動する姿が目撃されています。



チャット一服

笑うに笑えない話

今までのどかに山で暮らしていたサル達が人里に下りてきて畑を荒らしている。手塩にかけて育てた野菜を収穫しようと畑に行くとそこには無残な全滅の姿が…。サルのために一生懸命野菜を作っているようだ農家は嘆いている。生きるためには必死の覚悟をしている彼らには、これといった決めてはなく、野菜を作るんだったらサルにとられる前に、旨くないが未熟のまま収穫しようという笑えない切実な話を聞く。そんな馬鹿と思うのがこれが残念ながらサル対策の最も有効な手段の一つである。

農家の怒りは治まらず、コストバランス無視で大金を奮発し畑の周囲に柵をめぐらし、柵の中で農家は畑仕事している。本末転倒だ。サルから見たら、動物園ならぬ『人間園』だ。これも山村でよく見かける笑うに笑えない風景である。獣害が大都会にまで及ぶ現代、都会でも笑うに笑えない現実がある。先日のテレビニュース。たかがサル一匹に大勢の警官や地元住民が出動し大捕物。それを追っかける多数のテレビ局。サル一匹で街中大騒動。これも笑うに笑えない現実。サルはなかなかの知恵者だが、人間の知恵には到底及ばない。対策が的確ならサルの被害は必ず防げる！

名張鳥獣害問題連絡会 発行部数
【全戸回覧】
錦生地区：100部
赤目地区：200部
箕輪地区：70部
ひなち地区：60部
つつじが丘：430部
【全戸配布】
国津地区：380部
市民センター：90部
(10地区)
名張市議会：20部
名張市役所：20部

